

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 福井県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 福井県大飯郡高浜町立高浜中学校 | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 4 | 4 | 3 | 0 | 11 | 24 |
| 生徒数 | 132 | 135 | 114 | 0 | 381 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| 自ら課題をみつけ、主体的に課題を解決し、豊かに表現できる生徒の育成 ～評価を工夫した授業改善～ |
|--|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

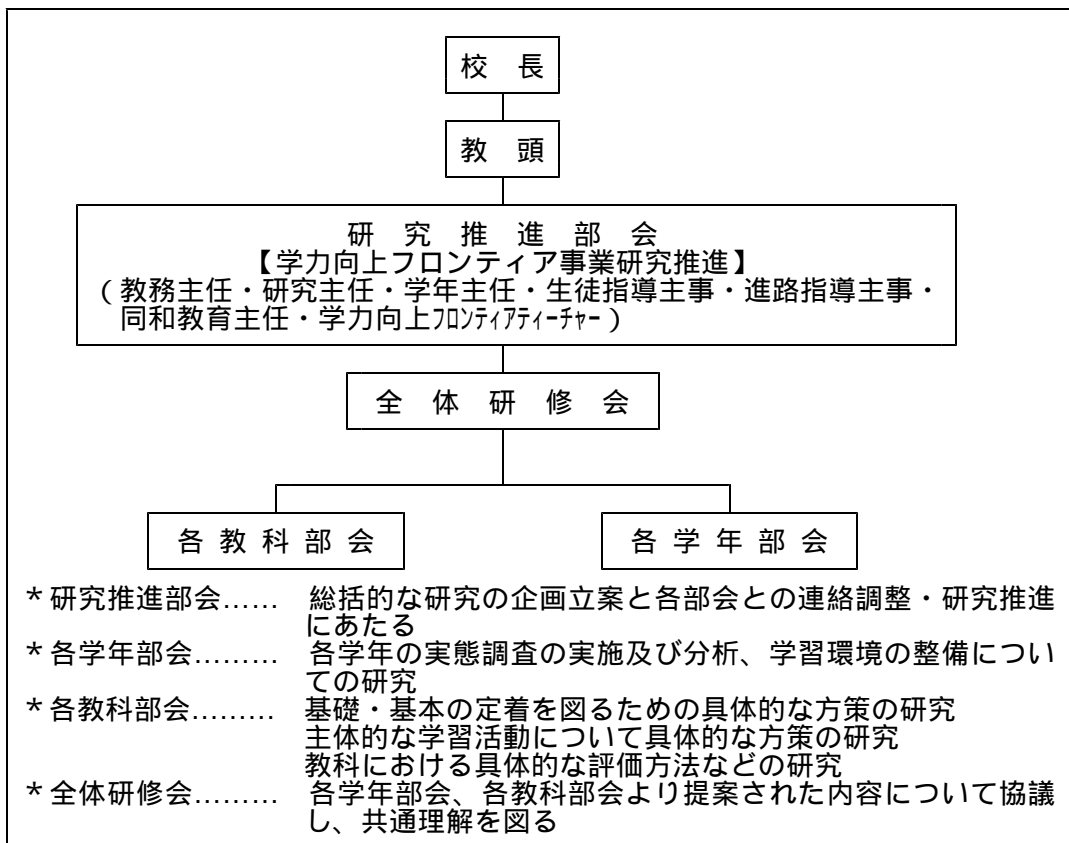
| |
|---|
| 全学年・全教科 全職員で取り組んだほうが、他の教科への研究の広がりがあり、職員の意識の面からも効果的だと考える。 |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| 平成15年度 | <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を定着させるための手だてと評価の在り方 ・主体的な学習活動を創造するための手だてと評価の在り方 <p>研究の見通し</p> <p>各教科において、「授業改善」という視点から評価を捉え直し、基礎・基本をどのようにして定着させていくか。また、主体的な学習活動をどのように創造していくかを研究する。こうした実践を通して主体的な学習が創造できれば「確かな学力」の向上が図れると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎・基本の定着</p> <p>各教科における基礎・基本とは何かを今一度確認する。そのうえで、基礎・基本を定着させるために日々の授業をどのように工夫するか。</p> <p>主体的な学習活動の創造</p> <p>生徒の主体的な学習活動をどう展開するかについて工夫する。</p> <p>指導法の工夫</p> | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|---|------------------|------|--|---|------|--|--|------|---|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>従来の指導法</th> <th>基礎・基本の定着及び主体的な学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・知識注入型 ・教師の教え込み </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが学び取ることが中心 ・作業、体験型、繰り返しドリル </td> </tr> <tr> <td>学習形態</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導 ・画一的な指導 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習、グループ学習、習熟度別学習などの活用 </td> </tr> <tr> <td>指導体制</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一人の教師による指導 ・学級、教科担任のみ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム・ティーチング、合同授業など </td> </tr> </tbody> </table> | | 従来の指導法 | 基礎・基本の定着及び主体的な学習 | 学習活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識注入型 ・教師の教え込み | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが学び取ることが中心 ・作業、体験型、繰り返しドリル | 学習形態 | <ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導 ・画一的な指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習、グループ学習、習熟度別学習などの活用 | 指導体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人の教師による指導 ・学級、教科担任のみ | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム・ティーチング、合同授業など |
| | | 従来の指導法 | 基礎・基本の定着及び主体的な学習 | | | | | | | | | | |
| | 学習活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識注入型 ・教師の教え込み | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが学び取ることが中心 ・作業、体験型、繰り返しドリル | | | | | | | | | | |
| 学習形態 | <ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導 ・画一的な指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習、グループ学習、習熟度別学習などの活用 | | | | | | | | | | | |
| 指導体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人の教師による指導 ・学級、教科担任のみ | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム・ティーチング、合同授業など | | | | | | | | | | | |
| <p>評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業において記述的な評価方法の工夫。 ・生徒に学習意欲を持たせる評価の在り方。 ・個人内評価や相互評価を教科の特性や学習内容に応じて工夫する。 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ ・ 確かな学力を定着させるための、個に応じた指導の工夫改善</p> <p>研究の見通し 各教科において、「授業改善」という視点から評価を捉え直し、個の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫改善が成されれば、生徒の学習意欲も高まり、「確かな学力」の向上が図れると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法 教材の開発 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 主体的な学習活動の創造 生徒の主体的な学習活動をどう展開するかについて工夫する。 指導法の工夫 個に応じた指導のための指導方法や指導体制について工夫する。 評価について ・ 日頃の授業において記述的な評価方法の工夫。 ・ 生徒に学習意欲を持たせる評価の在り方。 ・ 個人内評価や相互評価を教科の特性や学習内容に応じて工夫する。</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- * 数学科において、少人数指導・習熟度別指導を行っているが、特に、文章題の学習における習熟度別指導で成果があった。文章題には全く手をつけることができなかった生徒の多くが、立式まで取り組むようになったことである。
- * 理科の選択学習において、基礎コースと発展コースの2コースを3人の教員で、ティームティーチングの授業を行う。授業の前半は基礎コースをTTで、後半は発展コースをTTで行う指導形態を研究し、正しく実験器具が使えるか、観察・実験に一人ひとりが関わっているか、考察がしっかりできているかなどについてT2が指導するようにした。そのため、生徒は、実験器具にふれる機

会も増え、確実に実験の基礎・基本が定着するようになってきている。
 * どの教科も、個に応じたワークシートの作成や教材の開発、評価の工夫により、生徒に学習意欲を喚起したり、個々への指導が充実してきた。

2. 今後の課題

- * 今年度は、数学科において生徒の理解の状況に差が出やすい学習内容の時に各単元で数時間ずつ、習熟度別授業を行った。その際、生徒にあったコースの選択が十分でなかったため、選択方法が今後の課題である。また、習熟度別授業を時間的に拡大していくことも検討課題である。
- * 選択教科において、生徒が選択する際に友人関係で選択する傾向が少なからずある。選択教科のガイダンスの充実を図る必要がある。
- * 補充的学習、発展的学習の指導計画の見直しと教材開発の充実をしていかなければならない。
- * 生徒に学習意欲を持たせるような評価の在り方について、今後更に研究を深めていく必要がある。
- * 来年度は、今年度の取り組みの検証をしていくうえで、前年度との学力に関して比較調査を充実させていくことが必要である。

学力把握のための学校としての取組

- * 平成16年度県学力調査【第3学年】(11月実施)
- * 前年度実施の県学力調査と同じ問題での学力調査【全学年】(1月実施)
- * 前年度実施の「学習に関するアンケート」を実施【全学年】(1月実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 公開授業
 - ・平成15年10月2日(木)
 - ・公開教科..... 数学・理科・英語の3教科
 - ・対象..... 若狭地区の全小中学校の教員
- * HP作成については、校内研修会でHP作成方法について研修を進めており今年度(平成15年度)中に作成予定
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績
 - 以下の会で、研究の成果等を報告。
 - ・第1回基礎学力向上研究協議会 平成15年7月10日(木)
 - ・嶺南地区小中学校教育充実研修会 平成15年11月27日(木)
 - ・第2回基礎学力向上研究協議会 平成15年12月24日(水)
 - ・第2回小・中学校教務主任研修会 平成16年1月23日(金)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無